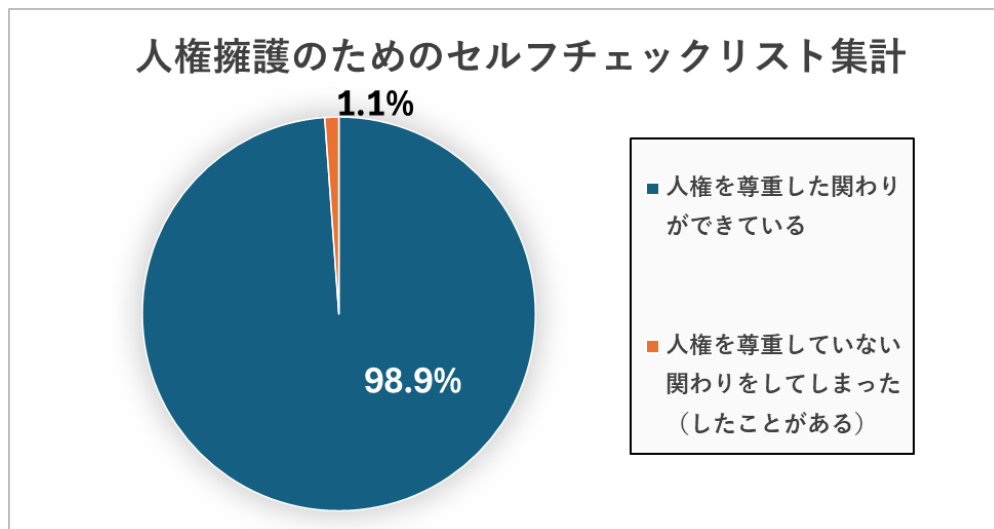


**八幡保育所** 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して98.9%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.1%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、否定的な言葉や、やる気が損なわれるような言葉ではなく、子どもたちが次の活動に期待をもてるような肯定的な言葉がけをしていくことを確認しました。また、肯定的な言葉がけとはどのような言葉かを意見交換しました。

小食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、子どもの好みや食事の量を把握し、子どもと相談しながら、個々に合わせた量を配膳することを確認しました。子どもにより、苦手な食べ物が皿にのっていることを見たことで食べる意欲がなくなってしまう子もいるため、どの子にとっても楽しい食事ができるよう、一人ひとりの意思を尊重していきます。また、食育活動を行う中で、食材を知ったり食の楽しさを経験できるようにしていきます。

いつまでも泣いている男の子に「男の子だからいつまでも泣かない」や、乱暴な言葉使いをする女の子に「女の子だからそんな言葉を使ったらいけない」と注意する。

上記の項目につきましては、性別を理由に子どもたちの行動を制限することはないものの、潜在意識の中にこうあるべきという思いがあるため、日々の中で、男の子、女の子に分けてしまうことがあると職員間で意見を交わしました。子どもの個性を尊重し、性別を意識せずに柔軟な思考で対応していくことを確認しました。